

『育びい育ばあ』のための『ほめほめ講座』

あいさつや感謝の言葉は心を育てる

赤ちゃんだと思っていた子どもも社会生活の中でいろいろな言葉を覚えます。時には「えっ」と聞き返したくなるようなことを言うことがあります。相手の気持ちを考えた言葉を使えることは、心を育てる大切な方法です。それは、日常の会話の中から育っていきます。

ポイント① 「おはよう・おやすみ・ありがとう・いただきます・ごちそうさま」など日常の会話の中でのあいさつを知らせましょう。

あいさつの言葉には感謝の気持ちや思いやりの気持ちが込められています。

ポイント② 子どもに「おはようは?」と強制するものではありません。

あいさつは人から強制されるものではなく、自発的に出るようにしたいものです。これは大人がやって見せることが肝心です。

ポイント③ 当たり前と思っていることにこそ、感謝の言葉を付け加えると心が育ちます。

家族や親しい人に「ありがとう」と日ごろから感謝の言葉を伝えましょう。言葉に表すことが、良い関係を築く第一歩になります。

私たち大人は子どもに「してみせる」ことが抜けて、「言って聞かせる」ことばかりになってしまいます。「子は親の鏡」、大人が子どものお手本になっていることを意識してみませんか。「あいさつや感謝の言葉が身につく」ことは、その子にとっての大きな財産になります。

☎市民福祉部子ども若者課 子ども若者相談センター

☎58-8077



市立病院から こんにちは

両津病院新築移転に関して

両津病院
院長 石塚 修 先生

診療科目/内科

両津病院は、現在の両津文化会館付近に開院を計画しています。内科、小児科、歯科口腔外科等の現在常勤医がいる診療科のほか、整形外科、耳鼻咽喉科、外科、婦人科等の現在と同等の診療科を予定しています。

東日本大震災後、全国の施設で災害を想定して耐震基準などの検査が行われました。当院は1981年に建設され、一部耐震基準を満たさないこと、津波が起きた際に病院が浸水すること、配管を含め建物が老朽化していることなどを指摘されました。

全面改修、現在地での新築、移転新築などを、新潟県や佐渡市、市内の医療機関関係者、島外の専門家に検討していただき、移転新築との結論となりました。

新病院では今までどおり、外来、入院を中心に診療を行いたいと考えており、また高齢化が進み、来院が難しい患者さんのために、訪問診療、訪問看護、巡回診療、リハビリの充実を図りたいと考えています。

両津病院の新築移転に関しては、賛成意見だけでなく、厳しいご意見もいただいています。今後も、市民の皆さまと話し合うことで、より良い病院となり、市民に必要とされる病院を目指したいと考えています。今後もご意見をよろしく願います。

次回は両津病院の岩谷先生です。

